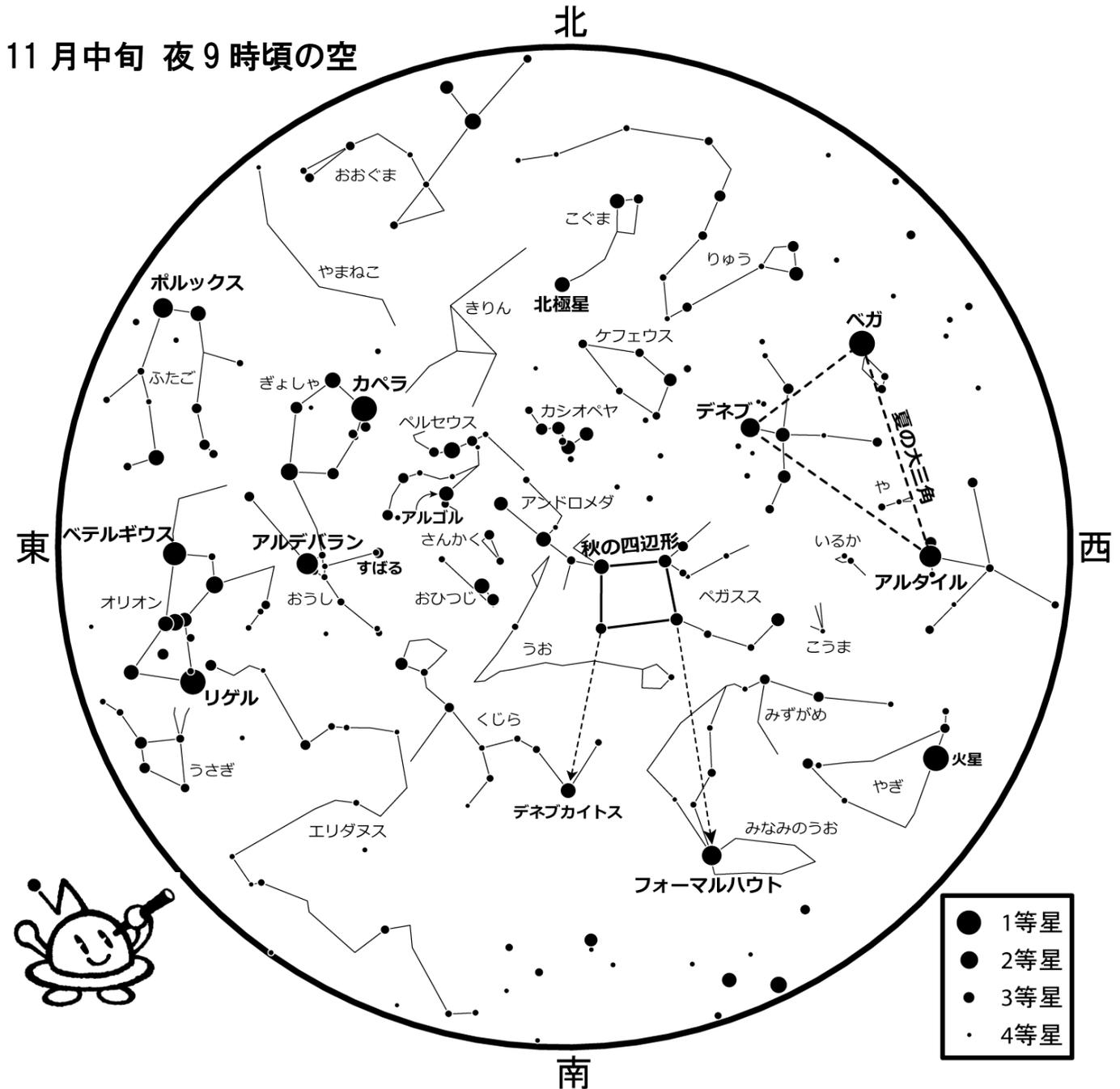


# 阿南市科学センター 11月の星空案内

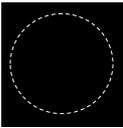


11月ごろになると天頂付近にはペガサス座の胴体にあたる秋の四辺形がならび、そして東の空には早くもぎょしゃ座やおうし座など冬の星座たちが姿を現しはじめています。一方で天頂から北よりの空には秋の代表的な星座であるカシオペヤ座の「M」のような星の並びを見つけることができるでしょう。さらにカシオペヤ座の東側にあるペルセウス座にはアラビア語で「悪魔」を意味するアルゴルという星が輝いています。この星は「食」と呼ばれる一方の星が片方の星を隠す現象によって、明るさが2.1等から3.5等へと暗くなります。2016年11月は3回観測の好機があり、特に17日の19時ごろから深夜にかけての食(変光)が最も観察しやすいでしょう。

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

## ◇ 月の満ち欠け

名称	新月	上弦の月	満月	下弦の月
形状				
見える日	10月31日	11月8日	11月14日	11月21日

※ スーパームーン

## ◇ 惑星について

名称	水星	金星	火星	木星	土星
見どころ	下旬にかけて西のごく低空で見える。	日没後に <b>宵の明星</b> として西の空で観察しやすい。	日没後に南南西の低空で見えるが、前半夜に沈む。	夜明け前におとめ座のあたりで観察可能。	日没後、西の低空に見える。11月3日の夕方には月・金星と並ぶ。
明るさ	約-0.5等	約-4等	約0.5等	-2等	約0等

## ◇ 今月のおすすめ天体

### プレアデス星団(すばる)

秋も深まってくると、夜空にはおうし座で輝くプレアデス星団と呼ばれる星の集まりを観察することができます。日本では古来より「すばる」という名で親しまれ、平安時代に清少納言が書いた枕草子の中にも登場するほどです。肉眼ではおよそ6つの星の集まりとして見えるため、近世(江戸時代以降)においては「ムツラボシ」という呼び方もありました。

この天体は地球から約410光年離れたところに位置し、実際にはおよそ100個の星たちが約13光年内外の空間に集まっていると考えられています。年齢は約8000万歳といわれ、星としてはかなり若いほうです(ちなみに太陽は約46億歳)。なお見かけの大きさは満月の約3倍もあるため、科学センターの大型望遠鏡ではその一部分しか見ることができませんが、観望会では低倍率の双眼鏡で全体像をご覧頂いています。



図1: プレアデス星団(撮影:2016/10/24).

## ◇ 今月の天文現象 ～スーパームーン～

11月14日は「スーパームーン」と呼ばれるいつもより少し大きくて明るい満月を見ることができます。地球から月までの距離は、月の軌道が楕円を描いているため、実は最大で約5万kmも距離が変化しています。そのため地球に最も近づいたときと、最も遠いときで月の大きさを比べると、見かけの大きさがおよそ十数パーセント異なります(図2)。スーパームーンという言葉は学術用語ではありませんが、この現象きっかけに晩秋の月に思いを寄せるといのはいかがでしょうか。



図2: 月の見かけの大きさの比較.